



中村俊定文庫  
文庫 18  
1036









日 叢 端 義 志 一 一 志 の 室 子 の 見 せ け ち 其 角

佐々木馬琴の著  
これいふは往古の神史  
とめいふは一書なり

おろむやうなん  
よくこころ  
もあちと  
よあてまの  
こころ

著 作 堂

まのいかりのめが  
ととくくりのあり  
たぢらひを茶



いかに  
かき  
よる  
か

してゆくこと  
いれが  
まのいかりのめが  
ととくくりのあり  
たぢらひを茶



康 貞 堂

ひげ  
あま  
の  
こころ



















第六回 茶屋の晩鐘 さらぬ母の叔 佐洲

さてもものころ  
まふやうなるも  
やどあつきの  
よからぬも  
さうのころ  
まふやうなる  
さてももの  
まふやうなる  
のねむい  
たしげある  
まふやうなる  
まふやうなる  
まふやうなる  
まふやうなる  
まふやうなる



茶屋の晩鐘  
さらぬ母の叔  
佐洲

さてもものころ  
まふやうなるも  
やどあつきの  
よからぬも  
さうのころ  
まふやうなる  
さてももの  
まふやうなる  
のねむい  
たしげある  
まふやうなる  
まふやうなる  
まふやうなる  
まふやうなる  
まふやうなる

さてもものころ  
まふやうなるも  
やどあつきの  
よからぬも  
さうのころ  
まふやうなる  
さてももの  
まふやうなる  
のねむい  
たしげある  
まふやうなる  
まふやうなる  
まふやうなる  
まふやうなる  
まふやうなる

さてもものころ  
まふやうなるも  
やどあつきの  
よからぬも  
さうのころ  
まふやうなる  
さてももの  
まふやうなる  
のねむい  
たしげある  
まふやうなる  
まふやうなる  
まふやうなる  
まふやうなる  
まふやうなる



さてもものころ  
まふやうなるも  
やどあつきの  
よからぬも  
さうのころ  
まふやうなる  
さてももの  
まふやうなる  
のねむい  
たしげある  
まふやうなる  
まふやうなる  
まふやうなる  
まふやうなる  
まふやうなる

佐洲















日第十回 蚕ひつゝ負女子帯と解せたり 不知作者

いと女のそはねこの  
なつものつらうら  
わらうらとどい  
ともあすはるか  
わらうらとどい  
をうらねんとす  
あんなけあま  
不そらわてま  
くともあたら  
のまらまはつ  
まらわらわら  
よるひるさか  
いららねん  
うていそのき  
わらうらの  
まらまはつ  
くらうらとど  
今あせひる  
わらひるま  
どとわらわら  
すくふまら

のまら  
このまら  
まらまら  
まらまら  
まらまら  
まらまら  
まらまら  
まらまら



のまら  
まらまら  
まらまら  
まらまら  
まらまら

下

日第十回 船つゝ月和の都

京 好春

まらまらまら  
まらまらまら  
まらまらまら  
まらまらまら  
まらまらまら  
まらまらまら  
まらまらまら  
まらまらまら



まらまら  
まらまら  
まらまら  
まらまら  
まらまら











ト  
セ

〇

ト